風地蔵新聞

第１１３号
発行　編集
風地蔵
白石　美帆
〒503-0922
岐阜県大垣市
馬場町８５

ヤフーブログ
毎日更新中
炎の女みほ日記
http://blogs.yahoo.co.jp/rion5230

打弾

鎌澤　宣子

二月十七日午後一時より神戸町中央公民館にて、打弾フェスティバルが行われました。

打弾というのは、和太鼓の演奏会で、私が教えて頂いている和太鼓の先生が主催されています。今年で十二回になります。一年間練習してきた成果を発表する場なので、みんな気合いが入っています。

二年前、十周年に招待していただき、見せてもらい、パーティーまで参加させて戴いて、その場で習おうと決めました。次の年には舞台に立たせてもらいました。

私が習っている場所は、大垣三城太鼓で、毎週金曜日に三城地区センターで夜七時から約二時間の練習です。とってもアットホームな雰囲気の中で汗を流しています。去年は体調を崩したり、仕事を言い訳にほとんど練習に行けませんでした。なので今年は客席から観ました。今回のテーマは「ふるさと」です。初めて参加の、神戸小和太鼓クラブ「朝市」から始まりです。ふれあい神戸朝市を表現した創作太鼓です。とてもはつらつとした演奏です。子供達の元気な姿に会場も盛り上がり、カメラをかまえる人や大きな拍手をする人。四年生から六年生の生徒で、総勢三十五人の迫力です。次は北小和太鼓クラブです。こちらは六人の生徒と先生一人の演奏です。とても和太鼓が好きでたまらないという子がいて、自然とその子に目が行ってしまいます。小さい体全体を使っています。いよいよ三城太鼓のメンバーと北小、篠笛教室、津軽三味線クラブの共演による「楽」です。志多ら（プロ和太鼓）のチャボさん作曲で、私が一番最初に教えてもらった曲です。体が自然と反応して、おもわず自分も舞台に立っているつもりで、体を揺らし、リズムを口で言って、腕も動かし、掛け声もかけていました。隣にいた人はびっくりしたのではと思います。みんなも生き生きして、楽しさが伝わってきます。次は、「ひびき駒」です。旅がテーマの曲ですが、何度も振りつけが変わって、ようやく自分達三城らしい物に仕上げていきました。長い曲ですが、太鼓の掛け合い、掛け声の面白さが伝わってきます。私も来年は一緒に演奏させてもらえるように、練習に行きたいと思います。

次は、神戸クラブの演奏でしたが、ベテランの方たちなのに、練習不足か自分達のものにしてないなという感じでした。ベテランの方でもこうなるんだと思いました。

第二部は、大垣西高和太鼓部の演奏からです。三曲立て続けで若さが溢れ、エネルギーを貰いました。三曲続けてはとても大変です。息が上がり、休憩しないと次に行けません。汗がドバッと出ます。子供達は平気ですけどね。生徒達はそれを見せずに、笑顔で、魅せる太鼓です。手の動き、指先一つにまで神経を使って乱れません。さすがという感じでした。

最後に和太鼓ユニット「ＴＲＹ」です。高校の部活ＯＢで、卒業後それぞれの道を歩んでいたけれど、もう一度和太鼓をしたいと結成されました。男性一人、女性四人の構成です。うれしくて仕方がない！のが伝わってくる演奏です。特にしめ太鼓がすごかったです。しめ太鼓は、演奏する時に欠かせないもので、このしめ太鼓ひとつで、スピードや曲の表情が変わってしまいます。どんどんスピードが増し、長胴太鼓をたたく人も早く打たなければいけなくなるので失敗してしまいます。あと、篠笛も一緒です。脇役のように思いますが、こちらの方が主役といっていいくらいです。

今回は客席から観せて頂いて、少しは和太鼓をやっている目で見て、勉強にもなりました。「やりたい」と思った時の気持ちがよみがえって、早く太鼓を打ちたい、力いっぱいたたきたいと思いました。

練習日を楽しみにしています。

あまでうすです

フランス美術切手シリーズの裡に、ルドン作「女性の横顔」という切手が一九九〇年に発行されている。岐阜県美術館は、フランス象徴主義を代表する画家オディロイ・ルドンのコレクションで世界的に有名な美術館である。過去二回「ルドン展」を観に行っているが、その裡でも取分け好きな絵に《キュクロプス》と云う作品がある。ルドンはギリシャ神話を題材にした絵を数多描いている。例えば《ペガソス》《アポロンの馬車》《パンドラ》等等。この《キュクロプス》は、一つ目の巨人が岩山の影から、覗きこむ様に見つめているその下に、様様な色の花に囲まれ乍ら眠る様に横たわる女性が描かれている。巨人族キュクロプスのひとりである乱暴な食人種一つ目が海神であるひとりの娘に叶わぬ恋をするという話がテーマになっている。絵は抽象性乍ら幻想的かつ神秘的に描かれ、何故か巨人の一つ目に純粋な心を見てしまう。他にも、一つ目を描いた《眼は奇妙な気球の様に無限に向かう》と云う絵があり、目はルドンにとって、イメージの象徴である。現実ではない心の深淵を覗き見た時、果して人は何処まで想像を広げていくのか、この絵を見ると、十八世紀の作曲家フィリップ・ラモーのクラブサン曲「ひとつ目の巨人たち」と云う曲を想い出す。“初心忘るべからず”と云う言葉を編み出した世阿弥が『森羅万象凡てに於いて「序・破・急」と云うリズムが存在する』と云っている様に、この曲は三分程の曲だが、正にこの神髄がこの曲にはある様に思えてならない。そして、もうひとつ泛かんでくる曲が、ブルックナーと共に好きな十九世紀の作曲家の一人グスタフ・マーラーが作曲した交響曲第一番。この曲には「巨人」と云う副題が付いている。「巨人」と云う呼称はジャン・パウルの小説から取られていて、奔放な人生経験を重ね、その結果、最後に円満な人間になっていく姿を描いた小説である。「巨人」は全五楽章から成り、それぞれの楽章には標題が付けられている。マーラーは標題に付いて「巨人礼賛ではない。解り易くする為に付けた」と述べている。この曲は、レナード・バーンスタイン指揮ニューヨーク・フィルのレコードを愛聴している。そして、このレコードのジャケットには、スペイン・ロマン主義の巨匠フランシスコ・ゴヤの描いた「巨人」の絵がデザインされている。皇帝ナポレオンのスペイン侵攻に対してマドリッド市民が起こした反乱に端を発した対仏独戦争の暴力、恐怖、混乱、民衆の抵抗を象徴的に描いた作品だと云われている。山脈を連想させる荒涼とした山山に、ひとりの巨人が拳を握り締めて立ち上がっている姿を描き、画面下には、人人や馬車、牛、ロバなどが無数の群れをなし逃げ惑う情景が描かれている。しかし、残念な事に近年まで、ゴヤの絵として認められて来たが、所蔵先で綿密な検査を行った結果、弟子、又は追随者の描いた物であることが解ったと云う。それでも美術館には今も「巨人」は飾られていると云う。

九州の空から

ラジオでは、だれ梅キレイすぎる！「春はまだか」のみごとなしだれ梅が咲声が毎日聞かれるくお屋敷の通りの道沿なか、太宰府天満いの家は、競うように宮のおひざ元だかしだれ梅が植えられてらなのか、どこのいるのも面白い眺めで民家の庭先にも、す。梅の花がみごとに桜の木は、咲いてなく咲いています。てもいいます。弁当の配達をしなど、梅の木は、そんながら、この家のしに意識してみてなかったので、この家も、あ昼間は上着はいらないの上の方の家にも、と、くらいポカポカしている壁からふわっと咲く梅ます。うぐいすの初音の花でいっぱいです。を待つばかり。白にピンクに、黄色？梅の町、太宰府ならでわの品評会を、道沿いに眺められるこの季節は、とっくに春満開です。

朝晩は、冷え込んでも、

日帰り社員旅行

原　由里子

昨年の秋の頃。店長が、「スタッフ３人でどこかに行きたい。」という話が出たのがきっかけでした。

社長が大垣にいた頃は、お店を休みにして泊まりに行ったり、どこかにご飯を食べに行ったりしました。が、社長が福岡に行ってから、スタッフでどこかに出掛ける事が無くなっていました。

気分転換とリフレッシュも兼ねて、私以外は主婦をしている２人。日帰り旅行がいいとなりました。

さて、どこに？

前に大橋さんが「滋賀県の黒壁に行きたい」と言っていた事を思い出し、「黒壁はどう？」と提案をしてみました。全員が、悪くないかもという感じで、その時は６～７割方、決まりかけていました。

ところ、大垣の情報誌「咲楽」を見ていた大橋さんが開けていたページを見ると、紅葉の特集で、紅葉狩りという文字のバックに赤いもみじが広がっていました。

自然を楽しみ、季節を感じる事は大切です。黒壁の話はどこかにいってしまい、紅葉を見に行く日帰り旅行に決定しました。

次はいつ頃いくかです。早くても紅葉し

ていなければ意味がありません。１１月中旬なら紅葉もキレイだと、お客様の流れを見て月曜日、１１月１９日に決定しました。

少し問題が。この日は店長の休みの日で、息子さんも休みで久々休みが一緒になるとか。そこは、息子さんが車を出してくれて、一緒に行くという事で解決しました。

当日、お店に９時に集合でしたが、３０分早くお店に行き、前の日にやり残した事を終わらせ、全員が揃い出発しました。

行く前に、店長と大橋さんが郵便局へ。さて、困りました。車の中に店長の息子さんと私の２人きり。

（心の声）・・どうしよう。何か喋らないとな・・。このまま無言は駄目だ。おかしい。話を持ちかけて、なんとか無言の空間だけは避ける事が出来ました。ふーっ。

車を走らせて、揖斐川まできて、停め、川沿いに堤防に乗って、そって歩き、赤い山に向かって北へ進みます。

どんどん紅葉していく山に近づいていきます。

最初の目的地、両界山横蔵寺です。伝教大使が自作の薬師如来を祀った寺で、比叡山の薬師如来と同じ木から作ったそうです。宗派が天台宗で、垣武天皇の勅願寺だそうです。

それよりも有名なのは、妙心上人の舎利仏。ミイラですね。

１５～６年前に、見に来た事があります。日本の様な湿度の高い国でよくミイラが出来たなと思った事があります。エジプトの乾燥した地域ならわかりますが。

その横蔵寺に行くため、カーナビに頼り、対向車が来たら無理！という細～い道を通って、山をひとつ越えて・・。たぶん、道を知っていたらもっと簡単なコースがあったと思います。迷子になるよりカーナビです。

到着です。横蔵寺より、少し離れた駐車場に停め、川沿いに、そって歩き、赤い橋と赤く染まった紅葉が見えてきました。

平日にも関わらず、紅葉を見に来た人が結構いました。私は、お店のデジカメを持って来てたので、デジカメと携帯で写真を撮り、鈍足になりながら進んでいきます。

途中、お参りをしながら舎利仏、ミイラが安置されている舎利堂に着きました。

舎利仏を拝観するため、靴を脱ぎ、３００円の拝観料を払って、舎利仏に手を合わせて外に出ました。舎利堂の近くの真っ赤に紅葉したもみじをバックにして３人の写真を息子さんに撮ってもらいました。

帰り道、売っている商品に足を取られながらも、次の華厳寺に向かいました。

前は、正月になると、南宮大社→華厳寺→おちょぼさんというコースで初詣に行ったり、紅葉を見に行ったりよく来た所です。

華厳寺という名前は、今回店長に教えてもらうまで知らなかったので、谷汲山に行くと言って、華厳寺に来ていたんだなと思いました。

横蔵寺から歩いて１０分です。こんなに近いんだと思いました。華厳寺も同じ天台宗です。西国三十三所、近畿二府四県と岐阜県に点在する観音信仰の霊場です。霊所を札所とした巡礼は日本で最も歴史があり、現在も多くの参拝者が訪れているそうです。

確かに、私がお守りを買っている時に、手帳みたいなのをお寺の人に渡して、何か書いてもらい、判を押してもらっている人を見かけました。

参道沿いにあるお店をフラフラ見ながら、拝殿の前の絶対登らないといけない急な階段に着きました。

店長「え―！登るのー」と渋々。大橋さん「さっ、行くよ！」と駆け足で上がって行きました。

私「ゆっくり登ろう。」と。それぞれのペースで登り、案の定大橋さんはへばっていました。

途中に、柱に鯉が上を向いた状態の鉛で出来たものがありました。話によると、その鯉を触りながら願い事を言うと、願いが叶うとか。行きも帰りも触って願い事をしました。なむなむ。

登り切ると、線香を焚いて煙が出ている所があり、頭や顔、体に煙をかけてお参りしました。

この華厳寺には、もう一つ有名なものが。真っ暗な所を通り、右から行くと幸せになり、左から行くと地獄に行くというトンネルです。

前から行ってみたいと思っていたので、拝観料１００円を払って、右から入って行きました。

本当に目が全然なれない暗闇で、とにかく壁に体を擦りつけて進まないと進めません。距離として長くないと思いますが、闇で何も見えないので、スタスタ歩けないです。普段の倍をかけて、途中一カ所だけ灯りが見れる所でホッとして、地上に戻ってきました。出たところから少し離れた所で、店長と息子さんと大橋さんが待っていてくれました。

行きも帰りも、黄色や赤の紅葉を撮りながら、谷汲山をあとにしました。

昼食がまだなので、大橋さんお薦めのイタリアンのバイキングのお店で、クーポンを使い、９０分千円の店に行きました。

名前は忘れましたが、北方町にあり、大橋さんのあれもこれも美味しいという連発を無視して、好きなものをいっぱい取って、お腹いっぱいになりました。

予想より早く帰って来たので、写真を現像しに行き、お店に戻り、それぞれのロッカーに写真を入れて帰りました。

家に着き、母に写真を見せたら、「何で、ゆりだけ背が低く写っているの？」と言われました。

確か膝を少し曲げて撮ったので、２人よりかなり背が低い人みたいに写っていました。「何で、普通に立って写らんの。」と写真の写り方に文句を言われました。

写真の写り方はどうであれ、楽しい日帰り旅行が出来ました。

風地蔵で笑顔

大橋　美紀

今、風地蔵では毎月１回のお教室を色々やっています。第２日曜日は、ののか先生のパステル教室です。ハガキサイズの可愛いカードを毎月のテーマを考え、皆さんで作っています。第２月曜日には、毎年１度展示会もしている、「橋のある風景」を書かれる三輪隆先生の筆ペンで描く絵手紙教室。先生の絵手紙に添えられる言葉がとてもいいんですよね。筆ペンですから、初めての方でも入りやすいお教室です。第３日曜日は法月利子先生の「古布で遊ぼう」のキャッチフレーズで小物や人形など、１回の教室で、しっかり作れます。次、６月には、特別教室として、「自分だけのオリジナル万華鏡を作る」、池田町にお住いの、長浜先生によるお教室です。教室の前に、４月のギャラリーで、長浜先生の作品６０個を展示します。こうして風地蔵は、毎月様々なギャラリー。イベントを企画して、展示だけでなく、体験教室もやっています。ずっと続けなくても、１度だけの参加でも作品が完成するので、ひな祭りや、端午の節句、クリスマス、お正月と、季節のイベントに合わせて、気軽に参加出来ると、口コミも増えてきました。これは、教えて頂いている、先生のお人柄も大きいです。年齢は、４０代から７０代の方中心で、「はじめて」の不安な方も、「夢中になれました。」「自分で作れてうれしい。」と、皆さん無心で、作品に向かってらっしゃいます。最後には、「とっても楽しかった」と、どの方も言われます。入るちょっとした勇気で、素晴らしい時間となりますね。

作品が出来上がると、お庭の見える、黒川温泉に来たような、風地蔵でのティータイムも、また和みのひとときです。熊本名物、いきなり団子や、紫いも万十、スタッフ手づくりの九州の丸餅入りぜんざい、こだわりのひきたて珈琲、数十種類の紅茶で、作品のお話をしながら、おしゃべりに花が咲きます。私達スタッフも、アンケートでの皆さんの要望にこたえたいと、日々笑顔に花が咲く計画を立ててやりたいです。

「入りづらい」という、お声も以前は一番多かったのですが、気軽にお越しいただける雰囲気になるよう、庭の手入れも心がけるようにしました。大垣にいながら、九州が味わえる、春には、メジロやウグイス、ジョービタキなどの野鳥も間近で見られる風地蔵へ、フラッとお越しいただきたいと、心よりお待ちしております。

第１１３号　風地蔵新聞　２０１３年3月3日

ちょっと立ち話

一人でカラオケに行くって、原さんのことでしょ？最近カラオケに行ってる？船乗ったんでしょ？いいね。そんなのやってたんだね。知らなかった。（エステのお客さま）

いつも読んでます。大橋さんのは字の大きさも、文も読みやすいですよ。犬の散歩をあんな風に楽しんでいらっしゃるし、ちゃんと家のことして出ていらっしゃるからすごいですね。（エステのお客さま）

いつも感心して読んでます。よく書かれるね。すごいですね。（三輪先生）

いつも楽しそうなのが伝わってきます。その反面、疲れているのかなとも思います。（エステのお客さま）

いつもありがとね、読んでるよ。（船町の奥さま）

いつも読んでます。書かれてる方の人となりがわかって面白いです。言わなかったけど、密かな楽しみなんですよ。（エステのお客さま）

りおんちゃんもこの３月で卒業ですね。あっという間の３年だったのではないでしょうか。４月より社会人です。学校より、部活よりもっと厳しい事があるでしょう。りおんちゃん、がんばれ！

奥田さん、子育てに仕事にすごい頑張りですね。いつでも任命待っています（笑）店長は、夏に、年明けにと家族でよく出掛けられますが、必ずご主人さんとの口げんかがありますね。でもこうして出掛けるってことは仲良しなんですよね。原先生が、船内見学に行かれて、たくさんの写真を見せてもらいました。私も世界一周行ってみたい。（大橋）

私も歩く事や、自転車に乗って走るのは好きですね。どこにでも行きますね。旅行に行ったりしなくても、プチリフレッシュが出来ますね。カウントダウンとか言った事無いです。昨年は遠くから小さい大垣の花火を家の近くの橋から見たくらいです。しかし、この前、高校入学と思っていたら卒業って。時が立つのが早いなーってしみじみです。ダイエット法はいくつかありますが、最近聞くのは食べる順番帰るとか。最初は果物→野菜→おかず→味噌汁→ご飯。ご飯とおかずを一緒に食べてはいけないそうです。おかずはおかずだけ。ご飯はごはんだけ食べるそうです。（原）

リフレッシュの時間って、とても大事ですね。私も犬を飼っていますが、普段は旦那が行き、仕事の休みの時に連れていってます。

ピースボートのポスターはよく見ます。そんな見学会があったら、私も行きたかったな。

リーちゃん、もう卒業。これから又いっぱいいろんな経験できますね。

美人秘書いいですね。いつでもＯＫです。あまでうすさんの話は奥が深すぎです。（鎌澤）

店長の、打弾の舞台は、初めてとは思えないほど、輝かしいものでした。いまでも鮮明に覚えてます。緊張さながら、見たことない店長の美しい顔が忘れられません。知り合いだからのひいき目で無く、冷静な目で見ても、どんなベテランより、華があり、それは素晴らしく、店長だけにくぎ付けでした。私はあの姿をもう一度見たいです。

どうしても、人は守りに入りプチ引きこもりがちになります。特に店長は、家庭の人！のイメージがあるので、あの太鼓の舞台は強烈に印象に残りました。毎週夜自転車で家とは逆方向に行くのも、また一からやるのも、雨天雪寒日、続けるのも、飛び込む勇気もいり、かなりつらいでしょう。行きたくないな、がさきに来ますね。行っても誰も褒めません。だけどどうか、また舞台に立ってほしい！

店長がいい顔してると、店も栄えます。何せ大黒柱ですから。どうかみんなで、お尻を叩いて金曜日に言い訳を付けれないように、送りだしてやって下さい。あの顔は、努力したものにしか出せませんから。がんばって！

原先生、ミイラの感想は？みんなそこが知りたいんじゃないのぉ。（笑）あたし、あれを見た時、木の彫刻だと思いましたよ。紅葉をバックの写真は、昭和のプロマイドみたいで、上品に中腰になる原先生は、しとやかな吉永小百合みたいでしたよ。

「入りづらい」を何とかしようと、すぐのびる草取りや、外回りの掃除を心がけてますよね。中に入れば、「こんな素敵な所があったなんて！」と言われるまでが、大変です。地域に愛される店作り、がんばってます！（みほ）

川風

しらいしみほ

卒業式まであと、数日となったきのう、「３年生を送る会」をしてもらって、いったん高山から帰ってきました。

リアルに感じられました。

１年生の時、立派でおおらかな３年生の先輩たちが壇上で感謝の思いを一人一人語られる姿に、目を潤ませてつぎつぎと伝えられていくのを見てました。

高校３年生が、すなおに自分の言葉をしっかりと伝えられるようになったり、こんな、素晴らしい人間に成長するんだ！と目を輝かせて見てました。

それが、じぶんたちが壇上に立つ日が来るとは、自分と向き合い、磨き続ける日々を送り続けている今もなお、これからも、終わりのない気がせず、まうすます、今日、明日、明後日、明後日、明後